令和４年度　江戸川区立平井西小学校　学校関係者評価　中間評価用報告書

学校教育目標	・やさしい子 ・じょうぶな体 ・よく考える子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○子供一人一人が輝き、生涯教育の基礎づくりが発揮される学校 ○自己肯定感、自己有用感をもち、夢と希望をもつ児童 ○時代の変化やキャリアステージに応じて自らの資質能力を高めることのできる教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞ ・外国語研究発表を行うことで、新しい授業の在り方を見出すことができた。 ＜課題＞ ・新たな授業の在り方を全教科に汎用していく。　・コロナ禍の中、夢と希望をもつことができる学校行事や授業の充実		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価 取組	自己評価 成果	自己評価 成果と課題	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 コメント	年度末に向けた改善策
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・7つの主な事業（取組）に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・「確かな学力向上推進プラン」を基に取組指標を掲げて実践。 ・「各教科等の連携教育プログラム」を活用した一貫した重点を置く指導の実現。 ・一人一台端末の日常的な使用を目指す学習活動の実施。 ・放課後補習教室による継続的な学習支援の実施。 ・3～6年生の理科・社会科・外国語活動、外国語科での部分的な教科担任制の導入。 ・「eライブラリアドバンス　江戸川っ子study week！」の実施。 ・東京ベーシック・ドリルの計画的実施。	・取組指標100%実施。 ・重点指導内容の80%定着。 ・毎日の使用率100%。 ・各学級での補習率35回以上実施100%。 ・各学年毎学期いずれかの教科で1単元実施。 ・全学年毎学期「西っ子家庭ルール週間」でeライブラリアドバンス100%実施。 ・週に1度の「計算タイム」でベーシックドリルの実施100%。	B	B	○東京ベーシックドリル診断シート1学期末に実施、分析。 ○タブレット端末使用は週3日以上の使用率で実施。 ○各学級での補習率100%実施。 ○部分的な教科担任制について、6年生で外国語と理科で実施。 ●1学期のeライブラリアドバンス使用率80．9%。 ○計算タイムでのベーシックドリルは100%実施。	B	学校としても保護者としても学力向上は重要なことだと思いますので、目標を達成できるように引き続き取り組んでいただければと思います。	診断シートや各調査結果を分析し、本校児童の強みや弱みを把握し、授業改善を進めていく。 タブレット端末の活用については、情報部を中心に授業での活用方法などを紹介し、全学級で使用率を上げていけるようにしていく。 部分的な教科担任制については、各学年もしくは5 6年の2学年の担任で話し合い、計画的に進めていけるようにしていく。
	体力の向上	・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	・年間を通した運動遊び「ウキウキタイム」の実施。 ・持久走月間、なわとび月間の実施。	・年間35回実施。 ・各学年期間中15回以上実施。	B	B	○感染状況を見つつ、運動遊びなど工夫して実施。 ●新型コロナウイルス感染症対策のため、外遊びができていない。	B	コロナ禍でなかなか思うようにいかないこともあるかと思います。子供たちの身体能力向上のためにもできる限り取り組んでいただければと思います。	感染状況を踏まえ、休み時間の学年割り振りを見直し、全学年が外遊びの時間が増えるようにしていく。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・年2回の読書月間。 ・年間を通しての本に親しむための取組の実施。(リーディングバディ、読書郵便、読書ビンゴ) ・区の巡回司書による、図書館活用を目的とした授業の実施。 ・読書科充実のための研修会の実施。 ・蔵書の整理と本棚の配置改善	・年2回の読書月間100%実施。 ・年間を通しての本に親しむための取組の実施。 ・区の巡回司書による、図書館活用を目的とした授業の実施。 ・読書科充実のための研修会の実施。 ・蔵書の整理と本棚の配置改善	B	B	○あじさい（6月）・もみじ（10月）読書月間を実施。 ○異学年でのリーディングバディ等の取組を実施。 ○低学年において区巡回司書による図書室利用の授業を実施。 ○1学期に図書担当による研修会実施。 ○区巡回司書が、図書室の整備に助言・協力し、図書室の環境整備を実施。	B	読書の習慣をもつことは大事だと思います。本に親しめる環境をつくっていただければと思います。	異学年交流や家庭との連携も交え、計画的に取組を進めていく。 区巡回司書との連携をさらに強化し、よりよい図書室にしていく。 探求的な学習では、児童の作品を「江戸川っ子　読書科コンクール」に出展することで、さらに探求する力が高められるようにしていく。
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・週に1度のあおぎり学級での個別の指導と、在籍学級担任との情報共有の実施。 ・年間15回の校内委員会の実施。 ・年間3回の校内判定委員会の実施。 ・常時、特別支援教室専門員との連絡・相談体制の確立。	・週に1度のあおぎり学級での個別の指導と、在籍学級担任との情報共有の実施率100%。 ・年間15回の校内委員会の実施。 ・年間3回の校内判定委員会の実施。 ・常時、特別支援教室専門員との連絡・相談体制の確立。	B	B	○個別の指導計画を基に巡回教員と担任が情報共有し、協力した指導を実施。 ○スクールカウンセラーや学校心理士からの助言も取入れ、校内委員会を実施。 ○1学期に校内判定委員会実施。 ○副籍交流は、感染状況を踏まえ、交流校の担当教員と副籍児童保護者と確認して実施。	B	教員、児童、保護者と連携し合い、児童が取り残されることが内容に対応いただければと思います。	児童の困り感を児童本人や担任、保護者で共有し、児童がよりよく成長できるように引き続き、組織として対応していく。
	子供たちの健全育成	・子供たちの健全育成に向けた取組	・学校と地域保護者が連携し、児童一人一人を認め励ます体制づくりの実現。 ・未然防止や早期対応、早期解決するために「いじめアンケート」やhyperQ-Uの実施。 ・SNS平井西小学校ルールを設定し、保護者と連携した情報モラル教育の推進。	・学校評価での「児童（お子様）を認め励ましていますか。」の問いに肯定的回答をした教員と保護者が90%以上。 ・hyperQ-Uテストで居心地のよい学級とする児童90%以上。 ・学校評価での「児童（お子様）はルールを守って使うことはできますか。の肯定的回答をした教員と保護者が80%以上。	B	B	○全教職員で自己肯定感を高められるように児童への声掛けを実施。 ○hyperQ-Uテストを実施。外部講師を招いて、分析方法について研修会を実施。 ○SNS平井西小学校ルールを児童と保護者へ配布し、学級指導を実施。	A	SNSの普及によりいじめがより見えにくい世の中になっているかと思います。子供たちの行動に注意し、子供たちが健全に学校生活を送れるようにしていただければと思います。	児童の自己肯定感を高め、学校生活を楽しく送れるように分析結果を生かし、よりよい学級作りに努めていく。 学校として言語環境を整え、より一層児童を認め励ます声掛けで児童に自信を付け、自己肯定感を高められるようにする。
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・学校公開や行事等への積極的な参観と感想を集約。	・年4回の学校公開の実施。 ・開校70周年記念運動会と音楽会の実施とアンケートの回収率80%以上。	A	B	○6月と9月に学校公開を実施。 ●開校70周年記念運動会の回収率が42.6%。	B	コロナ禍で判断が難しいかと思いますが、運動会、音楽会だけでなく、学校公開等も可能な限りでいろいろな方が参観できるように取り組んでいただけたらと思います。	学校公開が2回と音楽会の参観がある。学校での教育活動をできるだけ多くの方に見ていただけるように感染状況を踏まえ、参観方法を工夫し、回収率を上げ、教育活動の充実に努めていく。
	学校と保護者、地域と連携した周年行事の取組	・保護者、地域と連携し、各行事等の実施	・開校70周年記念式典の実施。 ・スクールバンドの活動。 ・地域行事への参加。	・開校70周年記念式典の実施。 ・スクールバンドの活動。 ・地域行事への参加。	A	A	○校内周年委員会を組織し、計画的に分科会を実施。祝う会実行委員会と連携し実施。 ○スクールバンドは朝練習を中心に活動実施。 ●新型コロナウイルス感染状況でラジオ体操等の地域行事の中止。	A	開校70周年記念式典準備、アトラクション準備等とても大変だと思いますが、頑張ってください。我々も協力します。周年イベントをぜひ成功させましょう。	開校70周年記念式典実施当日に向けて、準備を協力して進めていく。スクールバンドの活動も引き続き、進めていく。地域行事については、積極的に参加できるようにしていく。
特色ある教育の展開	「学校における働き方改革プラン」	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・行事や会議等の精選やSSS等の人材活用を行い、ひと月時間外勤務時間45時間以内の実現。	・ノー残業デー月1回 ・各学年毎日活用、活用率80パーセント	B	B	○副校長補佐や学年アシスタントなど新たな人材を入れ、教員の業務軽減。 ○ひと月時間外勤務時間45時間以内を8月達成。	B	勤務時間の削減にとても苦労なされているかと思います。目標を達成できるように頑張ってください。	定時退勤日を月1回設けるとともに、見通しをもって職務をし、副校長補佐やスクールサポートスタッフ、学年アシスタントに仕事を計画的に依頼できるようにし、ひと月時間外勤務時間45時間以内を目指していく。